

早稲田の疾風怒濤時代を駆け抜けた一教師

松尾隆



松尾隆

— 早稲田の疾風怒濤時代を駆け抜けた一教師

敗戦、学園復興、レッド・パージ

早稲田が、日本が熱かった時代に、ドストエフスキーを語り、 Kommunismus を説き、学生とともに悩み、闘った教師

松尾隆教授記念行事会

(目次より)

早稲田の古書店と松尾先生

「学園民主化の嵐」の中の松尾先生

あの肉声は今も生きる—「マルクス主義講座」と若者たち

私を突き動かす動輪—「歴史の歯車を前に回す」

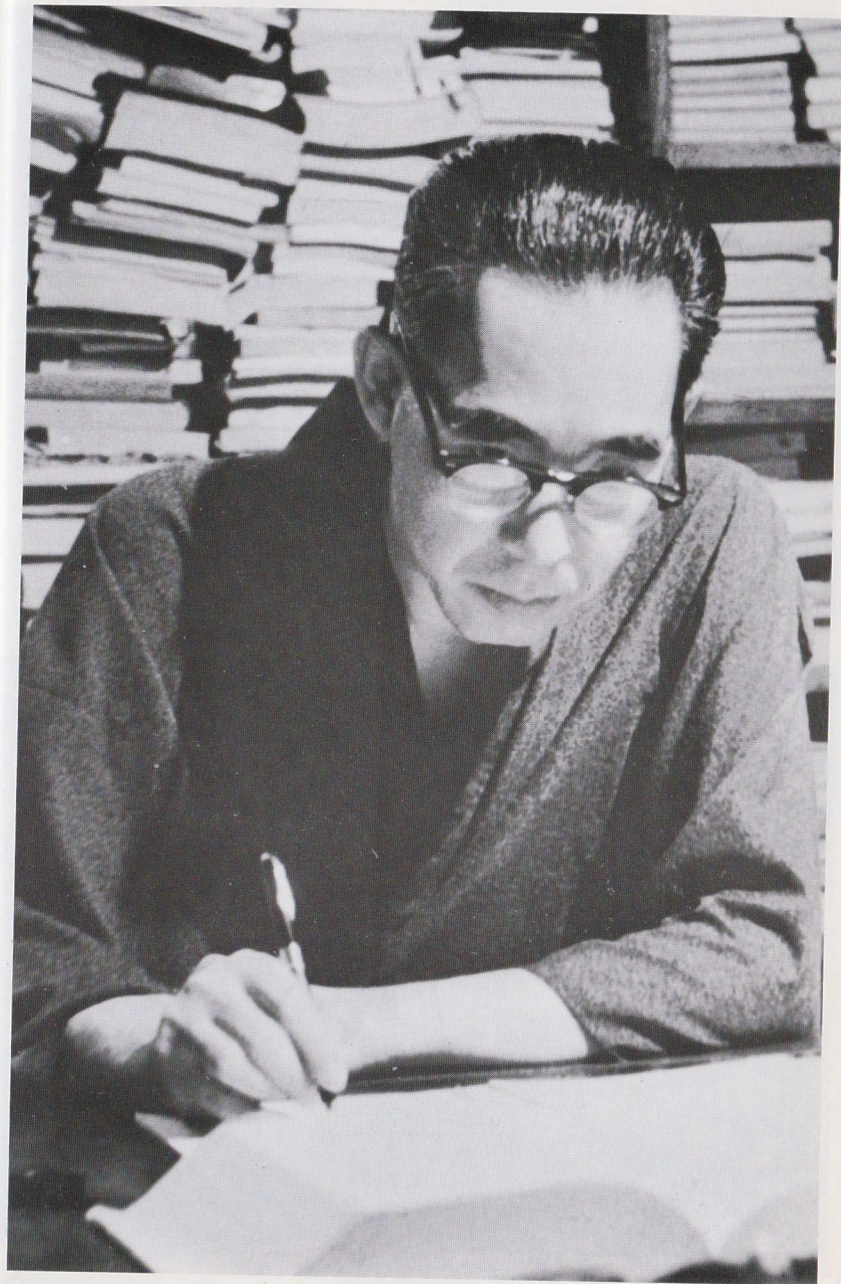
打ち続く処分、閑散とした教室、休講となった「悲劇の哲学」

原水禁運動の全国民化に「これは日本のコミュニズムですのう」

風貌と口調は、学者というより“アジテーター”

「この方が覚えやすいがのう」と“松尾流ロシヤ語文法”

発行所 (株)新制作社 定価 1,200円



刊行のことば

松尾隆。早稲田大学教授、ドストエフスキー研究家であり、哲学者、コミュニスト。無類の雄弁家でもあった。

若くして『早稲田文学』誌上で文芸評論の筆をとった。筆名きでられいじ木寺黎二。『ドストイエフスキイ文献考』の著者であり、シエストフ『悲劇の哲学』の訳者として知られている。学生を愛し、その生涯の最後の日まで平和のためにたたかった。

一九五六年十二月九日没。享年四十九歳。

戦前・戦中の暗い谷間と戦後の怒濤の時代を駆け抜けるように生きて、去って行った。今年、その三十周年にあたる。

青春の時代、志を同じくし、あるいはその教えをうけた早稲田大学出身者相集い、松尾教授を記念して本書を刊行する。

大学とはなにか、学問とはなにか、人生とはなにかに思いをいたす若き僚友たちにこの本をささげる。

刊行のことは

目次

第一部 松尾隆の人と学風

我が友 松尾隆……

古在 由重……九

松尾先生の『ドストイエフスキー文献考』をめぐって……

新谷敬三郎……三

衣子夫人に聞く松尾先生……

和田 陽一……三〇

思い出の松尾さん……

石堂 清倫……三〇

早稲田の古書店と松尾先生……

瀬見伊三郎……三〇

第二部 早稲田の学生運動と松尾隆

1. 戦前

戦前の早大学生運動……

川添 隆行……三

松尾君を憶ふ……

中林 貞男……三〇

学友 松尾隆君……

西村 勝一……三三

2. 戦 中

戦時下の学生運動……………

宮 直治…二六

露路裏の隠者……………

浅田 光輝…二五

3. 戦後初期

「学園民主化の嵐」の中の松尾先生……………

橋本 進…二四

「復員学生」の渴いた心にしみていった松尾ぶし……………

武藤 義男…二四〇

「教授は学生が選ぶものだ」……………

川添 登…二四三

あの肉声は今も生きる―「マルクス主義講座」と若者たち……………

橋本 進…二五〇

「コンサイス独和辞典」もろとも戦火をくぐりぬけ……………

小沼 静夫…二五四

4. 五〇年前後

一九五〇年前後の早稲田の学生運動……………

由井 誓…二六〇

若者とともに悩み、考え、闘われた先生……………

吉田 嘉清…二六〇

私を突き動かす動輪―「歴史の歯車を前方に回す」……………

堀越 稔…二六五

病床で聞いた「所感」、だが次第に「啓蒙主義」に限界を感じ……………

梅田 欽治…二六八

打ち続く処分、閑散とした教室、休講となった「悲劇の哲学」……………

鈴木 積…二七三

「一人一人が珠玉のように輝かねばならない」……………

小林 一彦…二七五

5. 没年まで

先生が残された「財産」……………

清水 洋三…二四四

松尾衣子夫人への手紙……………

三ツ松 要…二四八

平和葬のこと……………

由井 誓…二五〇

追悼文・松尾隆君……………

出 隆…二五五

追悼文・松尾隆君の死を悼む……………

古在 由重…二六〇

第三部 松尾隆の著作・講演

ドストイエフスキーの芸術……………	二六五
小林問題管見——小林秀雄「ドストエフスキーの生活」をめぐって……………	二八三
ドストエフスキーをめぐって……………	二九五
ニヒリズムとの格闘……………	三三五
史的唯物論……………	三四三
雄弁会と私……………	三五四
戦争映画と太陽族問題……………	三五八
*松尾隆の著作・論文〔解説〕……………	三七四
*略年譜……………	三八五

第一部 松尾隆の人と学風